

幼保小連携・接続モデル実施園公開研修会 報告書 【アストロキャンプ稲毛東保育園】

日 時 : 平成 31 年 2 月 1 日 (木) 10:15~15:00
 場 所 : 午前 : アストロキャンプ稲毛東保育園
 稲毛東公園 (戸外活動の保育参観)
 午後 : 稲丘小学校



参加者数

種別	園(校)数	参加人数
私立幼稚園(認定こども園)	0	0
公立幼稚園(認定こども園)	1	1
民間保育園(認定こども園)	20	27
公立保育所(認定こども園)	6	6
小学校	1	1
その他(大学・千葉県など)	3	6
合計	31	41

千葉市の幼保小連携・接続の取組(千葉市幼保支援課)

資料に基づき、千葉市幼保支援課から説明

モデル実施園の取組成果発表(アストロキャンプ稲毛東保育園)

■園長から園について説明

- 稲毛駅前で小規模園として実施。0才児から5歳児まで46人、うち5歳児は9人在籍。今年の5歳児は、個の力が強い印象であることから、団結力に課題を感じ、保育のねらいを設定した。
- 昨今の幼保の課題である、複数の就学先がある事は当園も該当しており、9名が5校へ就学する。
- 小規模園のメリットとして、子ども一人一人とじっくり関わるができるが、その反面、大人数での活動経験不足や遊びのアイデアが偏ることがあった。当園で就学時に心配していることとして、大人数での経験不足から子どもが困っていることを伝えることができるか心配があった。
- そのため、近隣の小規模園と地域交流活動として、近隣の小規模園との公園交流や発表会ごっこなどを実施し、大人数での活動経験や職員の計画立案の学びの場として活用している。

■園長・主任から取組について発表

<就学へ向けた取組(小学校との連携・交流)>

- 昨年度までの子ども同士の交流は、小学校にお呼ばれて参加するいわゆるイベント的なもので、職員は児童要録の送付のみで関係性が希薄であった。
- 今年度は、小規模園と合同で校庭や校舎内を見学させてもらうことで、イベントではない普段の小学生の生活を見させてもらうことにした。
- 園児には、事前に小学校の校庭見学前にイメージをふくらませたうえで9月に校庭見学を実施、当日は小学生の背の高さに驚いたり、長縄や一輪車で遊ぶ姿見たり、予鈴で一斉に行動するさまをみて圧倒されて

いた。

- 10月はいよいよ雨天であったため、急きょ校舎内を見学させてもらったが、校舎内に様々な部屋や備品、飼育動物がいることを知ることができた。教務主任から小学校内にたくさんの秘密がある事を聞き、子どもの興味関心が高まった。小学校見学後に、上履きを作成したり、縄跳びに挑戦したりする等、小学校への期待が高まっていることを感じている。
- また、見学後には園児からの感想をまとめ、保育室内に掲示するとともに、小学校へフィードバックし、併せて職員間の交流を行った。

<アプローチカリキュラムの作成>

- 今までは、3歳以上児と縦割りの月案を作成していたが、4月から前年度モデル園である、若竹保育園の月案を参考に、5歳児だけの月案を作成。10の姿を取り入れてみた。
- 6月には週案や、当園のポイントでもある地域活動を追記と月案の見直しを図った。
- コーディネーターからの助言を取り入れ、10月に活動あり気になりがちであった月案を見直し、予想される10の姿から活動を考え、必要な環境設定や振り返りができるようにした。
- 月案の見直しをする際は、千葉市が作成した「千葉市版アプローチカリキュラム作成の手引き」を活用したことで、浮き出てくる課題に対し、どのようにすべきか考えるきっかけとなった。
- 12月には他のモデル園との合同勉強会を稲丘小学校で実施。鈴木教務主任も最後まで勉強会に参加していただけたことで、小学校側の立場から話をきくことができ、大変有意義な勉強会となった。

<小規模園における取組>

- コーディネーターからの助言もあり、小規模園のメリットである少人数を生かした活動として、5歳児のみ9人で町探検を実施した。探検で得た経験を生かすため、図鑑や図書館を活用することで間接的な体験、知識の深堀ができた。
- 保育室内では5歳児のみのスペースを設定したところ、片づけずに遊べることから遊びが展開され、5歳児同士の世界で遊びこめる環境ができた。
- 夏には、七夕の願い事をする中で、保育者のねがいとして現実的な職業に目を向けてもらいたいと考え、町探検を実施した。誰かのなりたいものを全員で見学することで子どもたちの生活の広がりを期待した。
- ケーキ屋を見学した際は、園児から「作りたい」と意見が出たため、チラシを見ながらオリジナルケーキを作る等、創作活動に発展した。
- 「バスケットボール選手になりたい」と言っていた園児に、他の園児が中学校でバスケットボールがある事を伝えていたため、近隣中学校に訪問し、みんなでバスケットボールの試合を見学。集中して見学し、他者の興味を自身に落とし込めていた。
- 消防団を見学した際は、消防士になりたい子に対し「頑張って」「なれるといいね」と声掛けをしており、他人の気持ちに寄りそう姿が見られた。

<まとめ・課題>

- 職員は、AC作成をもとに、一つの活動に対して、10の姿のどこに当てはまるかと多面的に保育を見つめなおすことができた。
- コーディネーターの助言から、養護と幼児教育、小学校接続について再認識できた。
- 環境校正や反省を書き出し、次月への月案に生かすことで、保育の連続性や生きた計画作成、月案を深く考えるきっかけとなった。
- 保育者ありきではなく、子どもたちからの意見を取り入れ、日々の保育に生かせるようになってきた。

- 保護者も、子どもたちから小学校就学の不安が出てこないこと、小学校就学への期待が高まっていること、町探検の様子を子どもたちから聞くことで、子どもたちの成長を感じている様子であった。
- モデル園として5歳児のAC見直しをしたことで、4,3歳児の月案見直しを実施しており、各クラスの月案を掲示することで、職員全員が月案に沿った保育を実施できるほか、園長や主任と話し合いをしながら子ども目線で月案作成ができるようになった。
- 今後は10の姿の内部研修を行い、他のクラスへの波及を図るほか、保護者に対しても活動のねらい、目的を含めた子どもたちの様子を伝えていく。
- 地域交流は他園の園児や職員との交流のためにも継続するが、今後は保育のねらいを設定し、イベント的な活動にならないようにしていく。
- モデル園として小学校と関係ができ、校長より次年度以降も継続する大切さを共有できた。今後も継続していきたい。

近隣小学校からのお話(稲丘小学校)

【校長 岩原先生】

- 私自身はもともと中学校教師で、当時は「中1ギャップ」とも言われ、中学1年生は再教育が必要、小学校は何をしているのだと考えている教師が少なくなった。小学校へ赴任したところ、中学生と同じように教育していることを認識し、小学校と中学校、同じ教育委員会でありながら連携ができていないことを認識した。
- 幼稚園、保育園は、様々な実施主体者がいることから、小中よりさらに連携が重要と考えている。小学1年生になると赤ちゃん返りと言われているが、この部分はまさしく幼保小で連携・交流が必要だと考えている。
- 子どもたちのために、子ども同士の交流のみならず、教員同士の交流や双方の施設見学、お互いの教育について話し合う必要性を感じている。ぜひとも幼保の皆さんには小学校へ見学に来てほしい。

【教務主任 鈴木先生】

- 1年生は一クラス30人強の集団で、入学当初は泣き叫ぶ子がいる。新しい場所、新しい環境になじめない子がいることは事実であり、それは仕方がないことだとは考えている。
- 園の取組発表でもあったが、校舎内見学は雨天での急きよの対応であったが、子どもたちは小学校への興味関心が高まったので良かったと思っている。
- 小学校では新入学当初のスタートカリキュラムを総合的に実施し、例えば、校歌を歌うのは、カリキュラムでは音楽となるが、生活科で実施する等、45分の時間をうまく割り振りながら学校生活になじむように工夫している。
- 今回の交流を通して幼保の現状を見ることができた。この研修会に参加されている方、ぜひ自園に戻って報告をしたのちに、各小学校へ見学の連絡をすぐにでもしてほしい。

カリキュラムコーディネーターからのお話(千葉大学教育学部 教授 松寄洋子先生)

- 昨年度から公開研修会終了後に次年度は小規模園だと千葉市に言われた際、チャレンジと感じた。
- 少人数、園庭なし、千葉市でも増加傾向と課題がある中でモデル園選定となったアストロキャンプ稲毛東保育園の皆さんは本当に大変だったと思う。
- 昨年度は大規模な保育園で、小規模ではできないことがある事から、真似をするのではなく、小規模ならではのできることと助言した。
- 地域交流で複数園が集まることで、大規模園と同様に大人数での活動経験ができたことは素晴らしい。今後もイベントとしてではない交流をしてほしい。

- また、取組発表でもあったが、実は来年度、園からの就学児童が0人であるにもかかわらず、連携小学校として対応していただいた稲丘小学校に感謝申し上げます。
- 各小学校に特色はあれど、子どもたちは小学校に就学することから、就学先でなくとも子どもたちの興味関心を高めるためには重要なこと。
- 合同勉強会では教務主任の鈴木先生と一緒に話し合いができたことで、幼保小の教員交流が実施できた。
- アストロキャンプ稲毛東保育園のような小規模園は、小学校の交流の他、保育園同士の交流ができると、園児は様々な経験ができ、小学校以降の生活にも役立つ。例えば、町探検で近隣の方に会った際には挨拶をすると思う。小学校に就学したから挨拶するのではなく、普段の生活から自然と学ぶことが重要。
- 取組発表でバスケットボールの練習を子どもたちが見ている動画にもあったが、子どもたちが真剣に見学するさまが写っており、保育者の環境設定が重要であることがわかる。保育者のねらいも重要だが、子どもたちの知りたいことは何かを考えたうえで、保育者は環境設定することが重要。結果として主体的な学びへとつながる。
- 小規模園では、一人一人の思いが共有され、じっくり話をきくことができ、実のある経験、体験ができていた。この経験が小学校以降にもつながっていく。幼児教育は子どもたちの思いも読み取る、小学校の教育では子どもたちを見とるとされ、幼児期は表現力をつける時期でもある。保育者がねらいをよく考え、設定することで子どもは成長する。この時期ならではの経験ができるように環境設定をしてほしい。
- モデル実施園での取組では、日々保育の見直し、変更をしてくれた。とても大変だったと思うが、子どもたちの成長に必ずつながっているのだと思う。アストロキャンプ稲毛東保育園の取組に感謝申し上げます。

《アンケート結果》

1 参加者情報(アンケート記入者)

私立幼稚園 (認定こども園)	民間保育園 (認定こども園)	公立保育所 (認定こども園)	小学校	その他	合計
1	19	4	0	10	34

2 公開研修会の内容について

- ①大変参考になった ②参考になった ③あまり参考にならなかった ④参考にならなかった ⑤どちらともいえない
⑥未記入

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
千葉市の幼保小連携・接続の取組み	22	10	0	1	1	0	34
モデル実施園の取組成果発表	26	5	0	1	1	1	34
近隣小学校からのお話	22	9	0	1	1	1	34
カリキュラムコーディネーターからのお話	24	7	0	1	1	1	34

3 公開研修会全体について(理解の深度)

- ①そう思う ②まあそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤未記入

	①	②	③	④	⑤	合計
幼保小連携・接続への理解	29	5	0	0	0	34

取組みにおける理解	26	8	0	0	0	34
カリキュラム作成・見直しの参考	29	3	0	0	2	34

4 最も印象に残った内容／カリキュラム作成・見直しにあたり参考になった内容(抜粋)

- 月の指導計画を作成するにあたって、作成して満足してしまうことがあった。日々の忙しさにおわれ次の月の作成へとなくなってしまっていて見直すということができていなかったの、今後は振り返り・見直しに取組んでいきたい。
- 近隣小規模園同士の交流の場「なかよし5」があったことはとても参考になった。小学校の進学先が同じ園児にも出会える可能性もあるし、こういった活動を通じて自分たちの園の仲間意識が深まっていくように感じる。指導計画に10の姿を入れ込むことも参考になりました。
- コーディネーターの先生からお話のあった「変える勇気を持つ」姿勢、園のチャレンジ心がとても大事だと痛感しました。
- 千葉市の保育園でも園庭のない園があるということは初めて知り驚きました。だからこそ公園の利用などで他の園や地域のつながりを深めることにつながるのだとも思いました。小学校見学をきっかけとして、学校や他の園が地域でつながることの壁がなくなって、保育園側から積極的にアプローチしていくことが大切だということ学びました。
- 新規園でまだ年長児がいないが、同じ小規模園として、つながる遊びと小学校との連携ととても参考になった。月週案、アプローチカリキュラムも参考にしたい。
- 一度立案するだけでなく、話し合いを重ね改善したりつくり直したりすることでより良いものになっていくことを感じた。また、年度途中であっても形式を変えていく方法を知ることができた。
- 幼小連携のためにどのような取り組みをしていけばよいか見えてきました。これまではむずかしく考えていましたが、簡単(気がる)にできる交流活動でも子どもたちにとってはとても意味のある活動にできることがわかりました。
- 地域の小学校や地域の方々との連携を図っていく為に「子どもたちのために」勇気を持って積極的に関係を作っていくことの大切さを学ばせていただきました。自分の職場に持ち帰り、地域とのつながりに生かしていきたいと思えます。
- 当園も小規模のため、小学校への接続で小学校との交流にとっても消極的でしたが、本日の発表をお聞きして、当園も何か「できそう」「はじめよう」と感じた。特になりたいもの体験はすぐにできそうととても参考になりました。”なかよし5”は小学就学前のとても良い取り組みで、子どもたちの力になると思いました。当園もさっそく小学校や近隣園に声かけをはじめたいと思えます。

5 研修会全体に対する意見・感想(抜粋)

- アプローチカリキュラムについて正直なところ難しさを感じていただけでしたが、今回参加させていただきとても分かりやすく、子ども達が安心して就学に期待できるように取り組んでいきたいと明るい気持ちになりました。アストロキャンプ稲毛東保育園さんを始めとした「なかよし5」の取り組みがとても素敵で、小規模保育園ならではの取り組みも参考になりました。
- 子ども目線で考えていくというのが本当にキーワードだと思いました。変える勇気を持って大人もがんばることの大切さ伝える研修会でした。
- 私はまだ学生ですが、幼保小接続を学ぶ新たな視点やきっかけを得られたと感じます。授業で学んできた幼保小接続の実際について知ることができてとても良かったです。保育者を目指している身として、今回の内容を生かしてもっと学んでいきたいと思えます。
- 実際に保育現場を見てからの講義がすごくためになった。1年を通しての成果発表が今後の保育を見通しを持って進めていける情報を得ることにつながった。
- 今までの研修で取組をお聞きした園は大きな園庭があるなど、当園とは環境が違うので「すごいなあ～」で終わってしまったところがあったのですが、本日の小規模園の取り組み発表はとても身近で参考になりました。